

ふりがな

しらせ ゆみか

氏名

白瀬 由美香

## 1. 学歴

- 1998年3月 一橋大学経済学部卒業  
2001年3月 一橋大学社会学部卒業  
2003年3月 一橋大学大学院社会学研究科修士課程修了  
2006年3月 一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了  
2007年10月 日本知的障害者福祉協会社会福祉士養成所修了

## 2. 職歴・研究歴

- 2006年4月～2007年3月 医療科学研究所 研究員  
2007年4月～2009年3月 同志社大学政策学部 講師  
2009年4月～2012年3月 国立社会保障・人口問題研究所 研究員  
2012年4月～2015年3月 国立社会保障・人口問題研究所 室長  
2015年4月～2017年3月 一橋大学大学院社会学研究科 准教授  
2017年4月～現在 一橋大学大学院社会学研究科 教授

## 3. 学内教育活動

### (A) 主な担当講義名

#### (a) 学部学生向け

社会政策総論、社会福祉、社会研究入門ゼミナール、導入ゼミナールⅠⅡ

#### (b) 大学院

社会福祉、福祉政策研究

### (B) ゼミナール

学部後期、大学院

## 4. 主な研究テーマ

- 高齢者福祉、障害者支援等の施策が生活や健康、地域社会におよぼしうる影響
- 社会保障制度に関連する多機関・多職種連携と伴走型支援のあり方
- イギリスの社会政策（特に医療・福祉政策）の歴史的展開

## 5. 研究活動

### A. 業績

#### (a) 著書・編著

- ・房寧・李曉魁編『福利国家的過去、現在与未来』（共著）、中国社会科学出版社、2018.10（分担部分：「日本社会福利の变迁：以“自立”为主的生活支援转型」, pp.108-124）

- ・国立社会保障・人口問題研究所編『地域で担う生活支援：自治体の役割と連携』（共著），東京大学出版会，2018.3  
（分担部分：第1章「社会保障制度における支援の変遷」pp.15-38、第11章「都道府県による広域的な支援の可能性：千葉県における総合相談事業を事例として」pp.231-255）
- ・松本勝明編『医療制度改革：ドイツ・フランス・イギリスの比較分析と日本への示唆』（共著），旬報社，2015.2  
（分担部分：第3章「イギリスにおける医療制度改革」第4節「医療供給体制に関する改革」pp.221-246、第5節「考察」pp.252-254、第4章「3ヶ国の比較と日本への示唆」第7節「医療人材」pp.309-316、第9節「質の確保」pp.322-328）
- ・中川清・埋橋孝文編『生活保障と支援の社会政策（講座 現代の社会政策2）』（共著），明石書店，2011.11（分担部分：第3章「地域社会における医療のゆくえ：イギリス NHS の変遷をもとに」pp.68-90）

## (b) 論文

- ・「イギリスにおける「普遍的な個別ケア」構想：2019年 NHS 長期計画にもとづく新たなサービスモデルの検討」『同志社政策科学研究』 第21巻第2号，pp.101-112，2020.3
- ・「イギリスにおける医療専門職の業務変化：労働時間規制下での持続可能性確保」『社会保障研究』 第3巻第4号，pp.521-535，国立社会保障・人口問題研究所，2019.3
- ・「日本社会福祉の变迁：向以“自立”为主要的的生活支援转型」『社会保障評論』 第2巻第2号，pp.107-118，中国社会保障学会，2018.4
- ・「高齢者ふれあいサロンへの参加と外出行動：サロン参加者・非参加者の比較」（共著）『厚生指標』 第63巻第15号，pp.14-19，厚生労働統計協会，2016.12
- \* 「介護予防事業の身体的・精神的健康に対する効果に関する実証分析：網走市における高齢者サロンを事例として」（共著）『日本公衆衛生雑誌』 第63巻第11号，pp.675-681，日本公衆衛生学会，2016.11
- ・「イギリスの診療報酬制度」『健保連海外医療保障』 通巻111号，pp.20-27，健康保険組合連合会，2016.9
- \* 「高齢者の居場所作り事業に関する検討：網走市高齢者ふれあいの家をもとに」（共著）『大原社会問題研究所雑誌』 通巻680号，pp.54-69，2015.5
- ・「保健医療福祉職が生き生きと働き続けるための課題」『保健医療社会学論集』 第25巻第2号，pp.38-39，2015.1
- ・「勤労世代の暮らし向きの苦しさ：所得・健康・ソーシャルサポートとの関連に関する分析」『季刊社会保障研究』 第49巻第4号，pp.372-383，2014.3
- ・「イギリスの地域看護師の歩みと医師職との関係」『公衆衛生』 第78巻第1号，pp.20-23，医学書院，2014.1
- ・「イギリスの社会的ケア事業者の登録・監査・評価制度：「ケアの質委員会」による質の保証の意義と課題」『季刊社会保障研究』 第48巻第2号，pp.175-185，2012.9
- \* 「イギリスのパーソナライゼーション施策：選択を重視したケア推進の意義と課題」『障害学研究』 通巻8号，pp.86-106，2012.6
- \* 「英国における看護師の職務拡大：看護師による医薬品の処方に関する検討」『社会政策』 第3巻第1号，pp.102-112，2011.6
- ・「イギリスにおける医師・看護師の養成と役割分担」『海外社会保障研究』 通巻174号，pp.52-63，2011.3
- ・「英国における Physician Assistant 導入とチーム医療」『日本外科学会雑誌』 第111巻第1号，pp.61-65，2010.1
- ・「イギリスにおける在宅看護事業の普及と機能分化」『同志社政策研究』 通巻2号，pp.63-77，2008.3
- \* 「戦後イギリス地域医療の展開：1948～74年のバーミンガム市を事例として」『医療と社会』 第17巻第3号，pp.315-327，2007.12
- \* 「イギリスにおける地域保健サービスの形成：NHS 成立の一側面」『大原社会問題研究所雑誌』 通巻586-587号，pp.34-46，2007.9-10
- \* 「イギリス国民保健サービスにおける地域保健と医療の連携」『一橋論叢』 第134巻第2号，pp.232-243，2005.8

#### (d) その他

- ・「生活基盤としての医療：イギリスの人々の NHS への思い」『B 面の岩波新書』，岩波新書編集部, 2020.5
- ・ジェロントロジー研究会編『(認知症などの) 要介護高齢者の就労と QOL：frail な高齢者の社会とのかかわり方を考える』(共著)，損保ジャパン日本興亜福祉財団叢書 No.94, 2019.8.9
- 『社会保障サービスの受益・業務負担軽減に向けた地域組織の空間的配置・人的連携の基礎的研究』(共著)，国立社会保障・人口問題研究所 所内研究報告第 65 号, 2016.3 (分担部分：「千葉県による中核地域生活支援センター事業の特性：広域的な総合相談拠点が果たす機能」, pp.95-110)
- ・『社会保障サービスの受益・業務負担軽減に向けた地域組織の空間的配置・人的連携の基礎的研究』(共著)，国立社会保障・人口問題研究所 所内研究報告第 59 号, 2015.3 (分担部分：「社会保障サービス窓口業務と多機関連携との関係：福祉サービス提供の担い手に対するヒアリング調査に基づいて」, pp.5-29, 共著者：西村幸満・泉田信行・黒田有志弥)
- ・Social Security in Japan (co-author), National Institute of Population and Social Security Research, 2014.3 (分担部分：“Welfare for the Elderly”, pp.33-40)
- ・『2012 年社会保障・人口問題基本調査 生活と支え合いに関する調査報告書』(共著)，国立社会保障人口問題研究所 調査研究報告資料第 32 号, 2014.3
- ・『諸外国における医療制度改革と日本への適用可能性に関する研究』(共著)，厚生労働科学研究費補助金・政策科学総合研究事業 平成 25 年度報告書, 2014.3 (分担部分：「イギリスの医療保障改革Ⅱ」「平等な医療アクセス：医療人材」「質の確保」, pp.235-364, pp. 331-336, pp.349-354)
- ・『社会サービスにおけるナショナルミニマムの在り方に関する研究』(共著)，国立社会保障・人口問題研究所 所内研究報告第 52 号, 2014.3 (分担部分：「ナショナルミニマム概念の思想的系譜と諸概念との関係」「日本におけるナショナルミニマム概念の展開」「社会サービスの特性とナショナルミニマム：質に注目した基準設定の可能性」, pp.17-29, pp.30-46, pp.66-80)
- ・『諸外国における医療制度改革と日本への適用可能性に関する研究』(共著)，厚生労働科学研究費補助金・政策科学総合研究事業 平成 24 年度報告書, 2013.3 (分担部分：「イギリスの医療保障改革Ⅱ」, pp.173-198)
- ・『社会サービスにおけるナショナルミニマムの在り方に関する研究』(共著)，国立社会保障・人口問題研究所 所内研究報告第 49 号, 2013.3 (分担部分：「「ナショナルミニマム」に関する新聞記事の内容分析：1987～2012 年の全国紙 3 紙をもとに」, pp.5-28)
- ・『社会サービスにおけるナショナルミニマムの在り方に関する研究』(共著)，国立社会保障・人口問題研究所 所内研究報告第 48 号, 2013.3 (分担部分：「ナショナルミニマム思想の展開と諸概念との関係」, pp.9-30)
- ・『要介護高齢者の生活機能向上に資する医療・介護連携システムの構築に関する研究』(共著)，厚生労働科学研究費補助金・政策科学総合研究事業 平成 24 年度報告書, 2013.3 (分担部分：「認知症対策における医療・介護の連携：イギリスの取り組みからの示唆」, pp.39-48)
- ・『要介護高齢者の生活機能向上に資する医療・介護連携システムの構築に関する研究』(共著)，厚生労働科学研究費補助金・政策科学総合研究事業 平成 23 年度報告書, 2012.3 (分担部分：「退院支援プロセスへのリハ専門職の介入効果」「自宅退院要介護者に対する介護支援専門員と医療職間のリスク評価の差異」, pp.23-37, pp.87-106, 共著者：篠田道子・川越雅弘)
- ・『障害者の自立支援と「合理的配慮」に関する研究』(共著)，厚生労働科学研究費補助金・障害者対策総合研究事業 平成 22 年度報告書, 2011.3 (分担部分：「イギリスにおける「パーソナライゼーション」施策と障害者自立支援の課題」, pp.103-121)
- ・『持続可能な地域ケアの在り方に関する総合的研究 平成 22 年度報告書』(共著)，国立社会保障・人口問題研究所 所内研究報告第 37 号, 2011.3 (分担部分：「イギリスにおける介護の質の確保策：Care Quality Commission の評価手法を中心に」, pp.53-80)

- ・『要介護高齢者の生活機能向上に資する医療・介護連携システムの構築に関する研究』（共著），厚生労働科学研究費補助金・政策科学総合研究事業 平成 22 年度報告書,2011.3 （分担部分：「イギリスの退院支援システムの現状と課題：医療・介護連携の制度枠組みと従事者の関係に注目して」,pp.53-57）
- ・『障害者の自立支援と「合理的配慮」に関する研究』（共著），厚生労働科学研究費補助金・障害保健福祉総合研究事業 平成 21 年度報告書, 2010.3 （分担部分：「イギリスにおける障害者施策：自立生活を支援する分野横断的な取り組み」,pp.191-206）
- ・『持続可能な地域ケアの在り方に関する総合的研究 平成 21 年度報告書』（共著），国立社会保障・人口問題研究所 所内研究報告第 31 号,2010.3 （分担部分：「イギリスにおけるコミュニティケアの現状と課題」,pp.67-82）
- ・『初年次生向け導入教育プログラムの在り方に関する調査研究報告書』（共著），同志社大学政策学部, 2008.2 （分担部分：3 章および 4 章 2 節, pp.6-9, pp.18-25）
- ・『勤労者財産形成促進制度の問題等に関する実態調査』（共著），厚生労働省委託調査, 2002.3 （分担部分：Ⅱ章－2 「従業員持株制度」,pp.31-43）

## B. 本研究科着任後の研究活動（着任 2015 年）

### （a）国内外学会発表

- ・「諸外国の政策から何を学ぶか：医療に関する近年の比較研究の動向をもとに」，社会政策学会第 141 回秋季大会, 2020.10.25, オンライン開催
- ・「高齢者から寄せられた消費生活相談の実態（その 1）：相談方法に関する性別・年齢階層別分析」，老年社会科学会第 62 回大会, 2020.6.6-7, 誌上開催
- ・「高齢者から寄せられた消費生活相談の実態（その 2）：商品・サービス別の相談件数と金額の特徴」，老年社会科学会第 62 回大会, 2020.6.6-7, 誌上開催
- ・「自治体住民相談事業にもとづく生活支援ニーズの実態把握」，社会政策学会第 140 回春季大会, 2020.5.23-24, オンライン開催
- ・“How Long Do Older People with Disabilities Who Receive Employment Support Services Continue Working in Japan?”, 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress, 2019.10, Taipei International Convention Center
- ・「生活困難の把握による支援ニーズの可視化の試み」，社会政策学会第 139 回秋季大会,2019.10, 法政大学
- ・「イギリスにおける「普遍的な個別ケア」構想：2019 年 NHS 長期計画の検討」，社会政策学会第 139 回秋季大会,2019.10, 法政大学
- ・「書評：尾玉剛士『医療保険改革の日仏比較：医療費抑制か、財源拡大か』（明石書店,2018 年）」，社会政策学会第 139 回秋季大会,2019.10, 法政大学
- ・「共生型サービスに向けた人材面の課題の検討：障害福祉サービス従事者の就業実態調査をもとに」，日本社会福祉学会第 67 回秋季大会,2019.9, 大分大学
- ・「医療専門職の働き方と連携：イギリスからの示唆」,HU 福祉国家セミナー,2019.6, 一橋大学経済研究所
- ・「医療専門職の働き方と連携：イギリスからの示唆」，日本保健医療社会学会 2018 年度第 2 回定例研究会（関西）,2019.3, 神戸市立婦人会館
- ・「イギリスにおける医療専門職の労働規制とタスクシフティング」,SPPSN 研究会,2018.12, 津田塾大学
- \* 「日本における社会福祉の変遷：「自立」指向の生活支援へ」，中国社会科学院政治学研究所主催「福祉国家の過去、現在と未来」国際シンポジウム,2017.8, 北京宝辰飯店
- ・「ふれあいサロンでボランティア活動に従事する高齢者の高次生活機能の状態：老研式および JST 版活動能力

指標にもとづく一般高齢者との比較」, 第 59 回日本老年社会学会大会, 2017.6, 名古屋国際会議場

- ・ “The Most Important Aspect of Everyday Life among the Older People in Japan: Comparison among the volunteers, participants, and non-participants of a preventive long-term care program”, Gerontological Society of America Annual Scientific Meeting, 2016.11, Sheraton New Orleans (USA)
- ・ “Creating a Mutually Supportive Community in Aging Societies: A Case of Preventive Long-term Care Program in Abashiri City, Hokkaido”, 第 6 回アジア政策フォーラム, 2016.11, 中国人民大学
- ・ “Gender Differences in Roles within a Family among Older Japanese People”, 4th International Conference on Global Aging, Tsukuba Global Science Week, 2016.9, つくば国際会議場
- ・ 「総合相談機関の設置において都道府県が果たしうる役割: A 県総合相談事業にもとづく検討」, 日本社会福祉学会第 63 回秋季大会, 2016.9, 佛教大学
- ・ 「高齢期のソーシャルサポートの欠如と関連する要因: ふれあいサロン参加者・非参加者の比較分析」, 第 58 回日本老年社会学会大会, 2016.6, 松山大学
- ・ “Going-out Behavior of Elderly Japanese People and Related Factors: Comparison between Participants and Non-Participants in a Daily Activity Program”, International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Congress, 2015.10, Chiang Mai International Convention and Exhibition Centre (Thailand)
- ・ “The Relationship between Social Support and Subjective Sense of Living Standard: An Analysis of the Japanese National Survey on Social Security and People’s Life”, International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Congress, 2015.10, Chiang Mai International Convention and Exhibition Centre (Thailand)
- ・ 「社会保障のサービス窓口業務と多機関連携との関係: 福祉サービス提供の担い手に対する調査に基づいて」, 日本社会福祉学会第 63 回秋季大会, 2015.9, 久留米大学
- ・ 「高齢者ふれあいサロンへの参加と外出行動: サロン参加者・非参加者の比較」, 日本社会福祉学会第 63 回秋季大会, 2015.9, 久留米大学

#### (b) 国内研究プロジェクト

- ・ 科学研究費助成事業 (基盤研究 C), 「地域の生活構造を踏まえた共生型サービスの探求」(研究代表者), 日本学術振興会, 2018.4.1-2022.3.31
- ・ 損保ジャパン日本興亜福祉財団ジェロントロジー研究会「(認知症などの) 要介護高齢者の就労と QOL: frail な高齢者の社会とのかかわり方を考える」2017.4-2019.3
- ・ 科学研究費助成事業 (基盤研究 B), 「高齢期の生活実態と求められる在宅ケアの質に関する理論的・実証的研究」(研究代表者), 日本学術振興会, 2015.4.1-2018.3.31
- ・ 科学研究費助成事業 (基盤研究 B), 「超高齢・人口減少社会において多様な生活者を支える医療保障の持続性を目指す実証研究」(連携研究者), 日本学術振興会, 2015.4.1-2018.3.31
- ・ 厚生労働科学研究費補助金・政策科学総合研究事業, 「諸外国における医療制度改革と日本への適用可能性に関する研究」(研究分担者), 厚生労働省, 2012.4.1-2014.3.31
- ・ 科学研究費補助金 (基盤研究 B), 「学際的アプローチによる医療・介護サービスの利用・機能に関する制度横断的分析」(連携研究者), 日本学術振興会, 2012.4.1-2015.3.31
- ・ 科学研究費助成事業 (若手研究 B), 「地域社会を基盤とした高齢者への生活支援サービスの変遷に関する日英比較研究」(研究代表者), 日本学術振興会, 2012.4.1-2015.3.31
- ・ 厚生労働科学研究費補助金・障害者対策総合研究事業, 「障害者の自立支援と「合理的配慮」に関する研究」(研究分担者), 厚生労働省, 2010.4.1-2011.3.31
- ・ 厚生労働科学研究費補助金・政策科学総合研究事業, 「要介護高齢者の生活機能向上に資する医療・介護連携システムの構築に関する研究」(研究分担者), 厚生労働省, 2010.4.1-2013.3.31

- ・科学研究費補助金（若手研究B）、「イギリスにおける医療圏と地域医療連携に関する歴史的研究」（研究代表者）、日本学術振興会、2008.4.1-2012.3.31

#### （d）研究会、シンポ等のオーガナイズ

- ・学外研究者を招聘した「福祉政策研究会」を毎年1～2回開催
- ・科研費により「歴史から考える保健師の未来」シンポジウムを開催（2017年11月9日）

---

## 6. 学内行政

### （B）学内委員会

- 大学院教育専門委員（2019年4月～2020年3月）
- 医療政策・経済研究センター運営委員（2016年～現在）
- 附属図書館委員（2016年4月～2018年3月）
- 社会学部連続市民講座準備委員（2016年4月～2018年3月）
- 『一橋社会科学』編集委員（2015年9月～2017年8月）
- 入学試験管理委員（2015年4月～2017年3月）

---

## 7. 学外活動

### （a）他大学非常勤講師など

- 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 非常勤講師（2016年～現在）

### （b）所属学会および学術活動

- 社会政策学会、日本社会福祉学会、障害学会、日本保健医療社会学会、日本看護科学学会、日本老年社会学会、Gerontological Society of America、日本公衆衛生学会、医療経済学会

### （e）その他（公的機関・各種団体・民間企業等における講演等）

- 国立社会福祉協議会 中地区小地域福祉活動 コーディネーター（2016年）
- 医療経済研究機構 自主研究事業「イギリス医療保障制度に関する研究会」アドバイザー（2013年）

---

## 8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

- 国立社会保障・人口問題研究所 研究プロジェクト所外委員（2015年～現在）
- 厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）「諸外国における訪問看護制度についての調査研究事業」検討会委員（2013年）
- アジア開発銀行 Long-Term Care Specialist（2019年～2021年）